

大学共同利用機関法人自然科学研究機構  
経営協議会（第30回）議事要旨

1. 日 時 平成24年6月25日（月）10：45～13：30
2. 場 所 自然科学研究機構事務局会議室
3. 出席者 佐藤議長、國井委員、佐久間委員、高橋（真）委員、高橋（実）委員、高柳委員、立花委員、豊島委員、中村委員、牟田委員、木下委員、観山委員、林委員、小森委員、岡田（清）委員、岡田（泰）委員、大峯委員（陪席者）  
武田監事、竹俣監事（事務担当者）  
増田事務局次長、亀原総務課長、新地企画連携課長、長谷川財務課長、国立天文台佐藤事務部長、核融合科学研究所川畑管理部長、岡崎統合事務センター穴沢事務センター長及び樋口財務部長 他（研究成果発表者）  
小松 英彦 教授（生理学研究所）
4. 配付資料
  - 1 経営協議会（第29回）議事要旨（案）
  - 2-1 平成24年度基礎生物学研究所の組織改編（案）について
  - 2-2 大学共同利用機関法人自然科学研究機構組織運営通則 一部改正（案） 新旧対照表
  - 3 平成23事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）
  - 4-1 財務諸表
  - 4-2 事業報告書（案）
  - 4-3 決算報告書
  - 4-4 監事意見書
  - 4-5 独立監査人の監査報告書
  - 4-6 平成23事業年度決算（案）のポイント
  - 5-1 平成25年度特別経費要求一覧表
  - 5-2 平成25年度自然科学研究機構施設整備費概算要求総表
  - 6-1 大学共同利用機関法人自然科学研究機構組織運営通則（抄）
  - 6-2 大学共同利用機関法人自然科学研究機構機構長選考会議規程
  - 6-3 大学共同利用機関法人自然科学研究機構経営協議会規程細則
  - 6-4 大学共同利用機関法人自然科学研究機構経営協議会外部委員名簿
  - 7 自然科学研究機構外部評価について
  - 8-1 平成24年度科学研究費補助金獲得状況（新規採択＋継続）

8-2 トムソン・ロイター PRESS RELEASE

9 第12回自然科学研究機構シンポジウム（平成24年3月20日（火・祝））

アンケート結果

10 自然科学研究機構若手研究者賞（第1回）及び記念講演 開催報告

11 平成24年度 経営協議会の開催日程

席上配付資料 自然科学研究機構パンフレット（和文）

席上配付資料 自然科学研究機構パンフレット（英文）

5. 議事等

議事に先立ち、定足数並びに配付資料の確認があった。

1) 前回議事要旨（案）について

前回経営協議会（第29回）議事要旨（案）（資料1）が了承された。

2) 基礎生物学研究所の組織改編について

岡田（清）委員から、資料2-1、資料2-2に基づき、基礎生物学研究所における組織の改編について説明があり、審議の結果、案のとおり了承された。

3) 平成23事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について

観山委員から、資料3に基づき、平成23事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について説明があり、審議の結果、案のとおり了承された。

（主な意見等は以下のとおり）

- 文部科学省に提出する報告書だけではなく、パワーポイント等を用いて、報告書の概要を分かりやすく説明いただきたい。また、次の議題である財務諸表についても同様に資料の工夫をお願いする。
- 次回以降に報告書の概要を作成する。
- 生物資源のバックアップだけではなく、機構の研究データのバックアップについてはどのように考えているか伺いたい。
- 国立天文台を例にすると、研究拠点が分散していることに併せ研究データの分散もできているので、その拠点毎にバックアップを行っている状況である。
- 本機構は、各研究所が違う地域にあり、各研究所にコンピュータがそれぞれ置かれ管理されてきている。機構として、役員会で議論して、将来的には、研究所が違う地域にある利点を生かして相互にバックアップを作っていくということも今後の課題になると思う。
- eラーニング用のコンテンツを充実したとあるが、具体的にどのようなものであるか伺いたい。また、そのコンテンツが社会一般で活用できるようになっているのか伺いたい。
- 各機関は、総合研究大学院大学の基盤機関となっており、物理科学研究科においてeラーニングを活用して、他の分野（専攻）の学生も使えるように充実したと

ころである。更に幅広く活用していきたいと考えている。広く活用するという中には、英文化も含まれると考えるが、今のところ日本語のコンテンツのみとなっている。

- 機構の研究教育職員における女性比率が、3.5%から3.9%に増加したとあるが、増加するようにどのような施策を行っているか伺いたい。
- 男女共同参画推進に関する検討会の検討を踏まえアクションプランを作成した。本年度から、男女共同参画推進に関する検討会を男女共同参画推進委員会に発展させて、さらに着実に推進する体制としたところである。教員公募に女性研究者が応募してくることが少ないので、任期や環境を考慮し、公募要領に具体的に記載して公募するなどを行った。また、各機関に相談できる窓口を設置したところである。  
今後、女性研究者の比率が上昇していくものと期待している。
- 研究所の個人評価の仕組みを具体的に伺いたい。また、その評価結果をどのように公表しているのか伺いたい。
- 国立天文台においては、数年前から議論をしてきて、研究教育職員について5年ごとに2つの観点から評価する。一つは共同利用に対する評価、もう一つは個人の業績である。評価結果については、当該職員に面談して説明するが公表は行っていない。
- エイベックス・エンタテインメント株式会社からの寄附を受け、「若手研究者賞」を創設したことについて、それ自体は大変いいことだが、この賞は恒常的な制度であるのか。また、どのような経緯で創設したのか伺いたい。
- 恒常的な制度である。天皇陛下御即位20年を祝う奉祝曲「太陽の国」の歌手がEXILEであり、CDの販売元であるエイベックス・エンタテインメント株式会社からCDの売上による収益を、若手研究者支援のために機構に寄附するお話があり、本機構はこれを受入れることとし、この賞を創設したものである。
- 授賞式の後の講演会に、高校生が将来のキャリアパスを見るためか、たくさん参加してくれた。機構の研究の発信と、高校生向けの将来のキャリアパスをみせる試みとして、一つの大きな柱になると考えている。

#### 4) 平成23年度決算について

事務局から、資料4-1から資料4-6に基づき、平成23年度財務諸表について説明があり、審議の結果、案(資料4-1から資料4-5)のとおり了承された。(主な意見等は以下のとおり)

- 競争的資金の受入れが減少したと説明があったが、特に科学研究費補助金について、どの分野における研究水準が低下した、又は低下しつつあると考えられるのか、見解を伺いたい。
- 資料8-1の平成24年度科学研究費補助金獲得状況(新規採択+継続)をご覧いただきたい。これは当初配分について研究所ごとに示したもので、特別推進研究等は含まれていない。科学研究費補助金は、年度により若干のばらつきがあるのは当然であるが、採択件数や直接経費の配分額から見ると例年の水準を維持しており

問題はないと考えている。また機構の研究教育職員の数が他大学より少ないことを考慮すると、頑張っていると思う。

5) 平成25年度概算要求について

事務局から、資料5-1及び資料5-2に基づき、平成25年度概算要求について説明があり、審議の結果、案のとおり了承された。

6) 機構長選考会議の委員の選出について

事務局から、資料6-1から資料6-4に基づき、機構長選考関係規程等について説明があった後、審議が行われ、有馬委員、國井委員、斎藤委員、高柳委員、中村委員が選出された。

7) 自然科学研究機構自己点検・外部評価について

観山委員から、資料7に基づき、第二期中期計画期間の中間的な時点として平成24年度に、各研究所の外部評価とは別に機構本部の外部評価を実施し、自己点検を行う旨報告があった。

(主な意見等は以下のとおり)

○ 外部評価という観点から、経営協議会委員及び教育研究評議員以外から選出する予定である。

8) 平成24年度科学研究費補助金獲得状況について

事務局から、資料8-1及び資料8-2に基づき、自然科学研究機構における平成24年度科学研究費補助金の採択件数及び金額並びに論文の引用動向からみる日本の研究機関ランキングにおける自然科学研究機構の状況について報告があった。

9) 自然科学研究機構シンポジウムについて

岡田(泰)委員から、資料9に基づき、第12回自然科学研究機構シンポジウムを3月20日(火・祝)に東京国際フォーラムにおいて開催したこと、また初めての試みとしてTV中継により岡崎コンファレンスセンターを中継会場として開催した旨報告があった。

10) 自然科学研究機構若手研究者賞記念講演会について

佐藤議長から、平成23年度に自然科学研究機構若手研究者賞を創設した旨、説明があり、岡田(泰)委員から、資料10に基づき、自然科学研究機構若手研究者賞授賞式(第1回)及び記念講演会を6月10日(日)にUDX THEATERにおいて開催した旨報告があった。

(主な意見等は以下のとおり)

○ 講演会終了後、ミート・ザ・レクチャラーズ—講演者と直接語ろう—という、講演者と直接対話する機会を設けたところ、大変盛況であった。

- 高校生向けの講演会とあるが、夏休み期間に開催することもアイデアの一つではないか。
- 来年の開催については、ご意見を参考に検討したい。

1 1) 平成24年度会議日程について

事務局から、資料11に基づき、平成24年度の経営協議会の開催日程について報告があった。

1 2) NINS Colloquium について

佐藤議長から、新しい試みとして「NINS Colloquium」という名称の会議を、平成25年2月頃に日本で開催することを検討している旨説明があった。

具体的には、自然科学全体を一つのまとまりとして捉え、異なる分野の研究者が集まって研究成果を発表する場を作りたいと考えている。今回の資料の実績報告書にも記載したが、昨年度ドイツで開催した Germany-Japan Round Table 2011 のように、国際的に実施するか、国内の会議とするか等を、現在検討しており、自然科学としてどのような分野を研究するかといった観点も含めて Colloquium で議論していきたいと考えている。

1 3) その他

佐藤議長から、国立天文台チリ観測所の森田耕一郎教授が、5月7日(月)に赴任先のチリで不慮の事故で亡くなったことの報告があり、続いて林委員から説明があった。

1 4) 機構の最近の研究成果について

本機構の最近の研究成果について、生理学研究所の小松 英彦 教授から「色と質感を見る脳の働きを探る」と題して発表が行われ、意見交換があった。

以上